

はっかくどう 滋賀・八角堂遺跡

1 所在地 滋賀県長浜市森町字八角堂

2 調査期間 一九八三年（昭58）一〇月

3 発掘機関 (財)滋賀県文化財保護協会

4 調査担当者 田中勝弘・中井均

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 平安時代

7 遺跡および木簡出土遺構の概要

八角堂遺跡は長浜平野の北部、姉川左岸の沖積平野に位置する。遺跡の北東約二〇〇mの小字「観音堂」からは礎石の出土が伝えられ、



(長 浜)

地元では礎石の出土地を「じふく寺」と呼ぶ。圃場整備に伴い調査が行なわれた。木簡は、深さ約五〇cmの沼沢地から出土した。木簡のほかには、須恵器・灰釉陶器・回転台整形土師器・土師器での字皿など土器類、付札状木製品・杓子・曲

物・盤・漆器碗・多量の板状製品などの木製品が出土している。時期はいずれも九世紀後半から一〇世紀中頃にかけてのものである。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「」



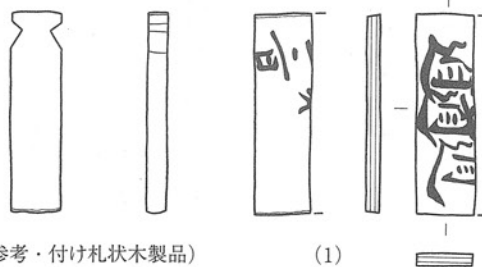
(22)×76×5 081

板材を横に用いており、右側面を欠損する。片面に「道」三字を横に連ね、他面に「三」などを書く。内容および文字の配置から習書とみられる。

9 関係文献

滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書』XI—1 (一九八四年)

(平井美典)



(参考・付け札状木製品)

(1)